

2
2月

雜 錄

目 次

大東亞戰爭日記摘要 375

新刊雜誌記載參考記事目次 375

業界雜報 378

大東亞戰爭日記摘要

2月12日 聖慮畏し木造船建造を御獎勵の御思召を以て帆柱用材を御下賜あらせらる。

2月13日 大本營發表 帝國海軍部隊が昨年8月7日以降本年2月7日までにソロモン群島及びニューギニア島方面に於て収めたる未發表の戦果並びに我方の損害左の如し。

戦果	1. 艦艇	驅逐艦	潜水艦	魚雷艇	哨戒艇
	撃沈	0	4	3	1
	撃墜	3	4	0	1
	計	3	8	3	2

2. 飛行機	撃墜 205	撃破 32	計 237
3. 船舶	撃沈 8	撃破 2	計 10

損害	1. 艦艇	巡洋艦	驅逐艦	潜水艦	哨戒艇
	沈没	0	3	3	1
	大中破	1	3	4	1
	計	1	3	7	2

2. 飛行機	自爆又は未歸還 215	大破 114	計 329
3. 船舶	沈没 5	大中破 5	計 10

備考 ソロモン島過去半年間に補給確保を繞つて如何に戦が激烈に行はれて居たか上表で窺はれる。即ち潜水艦に於ても又飛行機に於ても損害数の多いので察せられる。飛行機に於ては撃墜破したものの通計實に1300機を超え、之れに對し我方の損害通計600機を算へることは南太平洋戦に於て如何に空中戦が激しかつたのを想像するに餘りある。

2月18日 大本營發表(1)ソロモン群島方面 2月10~15日帝國海軍航空部隊の空戦並に陸軍地上部隊の砲火により敵機64機撃墜1機撃破せり。此の間我方の損害飛行機2機、軍事施設損害輕微なり。

(2)西南太平洋方面 2月1~15日迄の航空戦に於て同じく敵機4機撃墜、5機撃破せり。此の間我方損害なし、(3)アリューシャン方面 2月5~15日迄の航空戦で同じく、敵機5機撃墜、2機撃破せり。此の間我方の損害なし。

2月21日 南支軍新鋭部隊は帝國海軍部隊並に飛行部隊と密接なる協力のもとに廣州灣佛國租借地に進駐した。(之れで佛國政府諒解の下に援蔣路の完全遮斷が出来た)。

3月8日 大本營發表 2月16日以降3月5日までにソロモン群島及びニューギニア島方面に於て帝國陸海軍部隊の収めたる戦果左の如し。

戦果 飛行機撃墜、113機、同11機撃破、潜水艦4隻撃沈
我方の損害 驅逐艦 2隻沈没、輸送船5隻沈没、飛行機7機自爆及未歸還。

3月13日 大本營發表 (1)帝國海軍航空部隊は3月6日東部=

ニューギニア方面にて敵輸送船1隻(3000噸級)を轟沈、他の1隻を大破せり。(2)帝國海軍部隊は3月10日ソロモン群島の我基地に來襲せる約60機の敵機中その11機を地上砲火により撃墜せり。(3)3月11日ニューギニア島東部の敵航空基地を攻撃し挑戦し來れる敵戦闘機18機を撃墜せり。(4)3月11日鳴神島に來襲せる約30機の敵機中その3機を地上砲火により撃墜せり。我方の損害いづれも輕微。

3月16日 3月12日東條首相東京出發 13日南京着汪主席らと膝を交へ米英撃滅策など協議 15日午前福岡に歸着したと發表。

3月18日 ビルマ・バーモア行政府長官一行帝國政府の招きに應じ空路入京。

3月20日 ベルリン特電 去る2月中旬より開始された獨軍のドネツ、ドニエプル兩河中間地區に於ける反撃戦により、獨軍はハリコフ及びビエルゴロド兩市を奪還しドネツ河の中流西岸を再び手中に收めここに冬季の重大危機を脱するに成功した。

新刊雜誌記事參考目次

理化學研究彙報 第21輯 第12號

復水器管の如き鹽水が流れる管の腐蝕の實驗(第3報)

(第4報)(第5報) 長岡 順吉, 米山 寅男 1201

分光機細隙照射用集光装置(第2報) 登石 健三 1251

二三の擬三元合金の構成に就て 片山 龍成 1256

金屬棒の縦振動の減衰に關する熱彈性的理論に就て

堀 伸夫 1269

工學と工業 第11卷 第1號 昭和18年1月

照度の作業能率に及ぼす影響に就て 水川 孝

不可視ガラス 不破 橘三

朝鮮鐵業會誌 第26卷 第1號 昭和18年1月

鑛石の粉碎と爆碎法 水田 準 9

ダヴオイ地方の地質と鑛床(主としてタングステン鑛床)

三本杉巳代浩 17

滿洲冶金學會會報 第5卷 第37號 昭和18年2月

M3合金の高溫に於ける強さの比較試驗 森永 卓弌 11

東邊道大栗子溝鐵山産赤鐵鑛母岩の質と除磷試驗

國弘 勳 20

鐵鑛石の熱傳導率に就て、第1報其の測定法 孫 延 烈 49

滲炭用鑛に就て 嵯峨 敏郎 54

鑄物 第14卷 第11號 昭和17年11月

13%クロム鑄鋼の製造實驗【谷山殿,小森完二,和田儀男 487

鑄鐵中の水素による鑄巣及び收縮窩に就て 音谷 登平 501

本邦及び滿鮮地方に使用せられる鑄物砂の性質の附圖

武智 馨 501

23

アルミニウム珪素鑄造合金マンガン青銅鑄物に就てアルミニウム鑄塊による凝固と纖維構造組織との關係	520	微風計の試験に就て	岡留 豊二	32
水曜會誌 第 11 卷 第 4 號		地質鑛物クローム鐵鑄に就て		38
金屬の定量分光分析の研究 (第 3 報) 放電條件の影響に就て	平松 良雄	205	電氣製鋼 第 19 卷 第 2 號 昭和 18 年 2 月	
鹽素化油を使用せる浮選試験 (第 1 報)	金澤一雄, 寺西好一	221	Cr-Mo 鋼鈹の熔接割れに關する實驗的研究 (其の 1)	
硫化鐵及硫化滿俺の酸化分解溫度に就て	森田志郎, 梶谷彌壽男	229	綿織清治, 柳 昭 隆	61
機械と材料 第 79 卷 第 986 號 2 月號			銻鋼を酸化銅洋間の平衡に及ぼす鹽基度及び溫度の影響 (翻譯)	吉井 周雄
匍匐に就て	清水 篤磨	58	機械技術 第 31 卷 第 2 號 昭和 18 年 2 月	
試作粘性ポンプの試験結果	中平助, 川崎廣	68	燃料節約の諸問題	辻本謙之助
車輛用資材の節約及代用化に就て	多賀 祐重	74	熱空氣機關の理論 (2)	奥村 省三
金屬處理より見た今次大戰の特徴	佐藤 貞雄	87	計算圖表の形態學的研究 (1)	松葉 菊延
生産技術 第 29 卷 第 2 號 昭和 18 年 2 月			衝撃擲出工作法	竹内松男譯
合成燃料資源としての無煙炭の利用に就て	石橋 弘毅	10	アルミニウム 第 3 卷 第 1 號 昭和 18 年 1 月	
クロマイザー (硬質クロムめつき装置)	後藤安太郎	26	鑄造用 Al 合金に現はれるピンホールの成因に就て	高橋越二, 岩村舜郎
地學雜誌 第 55 年 第 648 號 昭和 18 年 2 月			工業技術 第 2 卷 第 21 號	
東亞建設と南方地下資源	木下 龜城	45	鐵の銹に就て	遠藤 彦造
スマトラの鑛産資源	宮本 弘道	62	鐵鋼統制 第 3 卷 第 1 號 昭和 18 年 1 月	
採鑛冶金 第 21 年 第 2 報			銻鐵増産方法に就て	俵 國 一
選鑛油の氣泡に就て (第 2 報)	鶴田 重治	41	電力規正と鐵鋼生産	29
木炭銻鑛爐に就て (II)	鈴木 芳郎	45	鐵鋼需給の計畫化改善に就て	29
稀有金屬に就ての概要 (I)	津田 昌利	50	米國鐵鋼業の現状と其の脆弱點の檢討	40
共榮圈の電力資	53		鐵鋼技術の日本の性格	加藤 精一
砂鐵鑛區と處理工場	49		鐵鋼企業はどこ迄伸びるのか	小島 精一
南方産の選鑛劑	56		滿洲鐵鋼協会の概況	84
日本化學會誌 第 64 帙 第 1 號			日立評論 第 26 卷 第 2 號 昭和 18 年 2 月	
石灰石に於ける組織が其用途に及ぼす影響 (第 1 報)	山根武雄, 大庭景利, 阿部道夫	7	戦時下に於ける科學技術の研究	鳥山 四男
臺灣産石灰石の檢鏡的研究	7		ルーツ型送風機の騒音に就て	野崎 松郎
新式元素週期律表	左右田徳郎	99	切削工具の標準壽命の研究	相原 榮一
大日本鑛業協會雜誌 第 51 集 第 602 號 昭和 18 年 2 月			生型鑄物砂の研究	杉野 馨
各地産耐火粘土の研究 (第 1 報)			軍事と技術 第 195 號 昭和 18 年 3 月	
2, 3 著名粘土の X 線分析	秋山 桂一	85	主要非鐵金屬の製鍊法と大東亞共榮圈に於ける其の資源	
熔融性鹽酸の結晶性に關する研究 (第 2 報)			川口 幸晴	16
加里亞鉛珪酸鹽の結晶速度に就て	平岡 尙	87	純鐵に就て	佐野 幸吉
耐火物の鑛物學的研究	阿部 英一	92	工具の熱處理其他	三橋鐵太郎
電氣爐用窯業的發熱體	佐藤純夫譯	109	強磁性金屬材料の彈性	木村 鍊一
動力 別冊 64 昭和 17 年 12 月			戰車に對する或課題	杉村 俊雄
發電用汽罐の定期検査	太田 定治	1	金屬 第 13 卷 第 2 號 昭和 18 年 2 月	
汽罐の熔接に依る修理	佐々木新太郎	23	自動車用代用金属材料	古城 肇壽
汽罐の保温材に就て	高田 豊	30	ニッケル節約鋼の各種性質調査	關口 次郎
北支に於ける汽罐給水の處理	淺野 誠一	54	特殊金屬材料の代用材 (つゞき)	及川 象平
汽力發電所に於ける粗惡炭の燃焼狀況	笠原壽三郎	74	外國の代用鋼	錦織 清治
微粉炭燃焼と微粉燃焼汽罐の保守	中山 智之	83	物理冶金實驗法	岡村 俊彦
集塵装置と灰處理	藤田 範助	121	鋼の使用節約と代用材	高瀬 孝次
發電用汽罐の灰處理	日根野 漢	132	カーボン評論 第 10 卷 第 1 號 昭和 18 年 2 月	
電氣學會雜誌 第 63 卷 第 2 冊 第 655 號 昭和 18 年 2 月			炭素粒度及び其の配合割合に依る炭素質電極特性の變化	小森正治譯 (1)
最近の電氣探鑛	岩佐 茂作	113	電刷子に就いて (其の 23)	(6)
電弧の理論	石野 幸三	157	建築學會論文集 第 27 號 昭和 17 年 11 月	
九州鑛山學會誌 昭和 18 年 1 月			實測による採光能率の研究 (第 2 報)	木村幸一郎
			熱對流による通氣現象の研究 (第 2 報)	佐藤 鑑
			日本化學會誌 第 64 帙 第 2 號 昭和 18 年 2 月	

溶液の熱擴散效果の研究(第6報)再び電解質混合溶液の分離に就て	廣田 鋼藏	112	日本金屬學會誌 第7卷 第1號 昭和18年1月		
液體2成分系の粘度に就て	木村 修	120	合金の凝固の際共存する固液兩相の容積變化(第1報)	高瀬 孝夫	26
造船協會雜誌 第249號 昭和17年12月			鐵鑛中の全硫黃の燃燒容量に於ける過酸化水素溶液のSO ₂ 吸收酸化能率に就て	三井三郎, 門屋敏夫, 桐山靜男	34
鋼船構造規定解説(其の9)		634	外國に於ける熱處理論の展望(V)(輯録)	岩瀬 慶三	6
工業現勢 第11卷 第10號 昭和17年10月			球狀セメントタイト(II)(輯録)	近藤 正男	11
本邦銅及鐵鋼生産高		5	固體の塑性理論(III)(翻譯)		19
大陸科學院彙報 第6卷 第6號 康徳9年12月			高級電弧熔接に於ける熔接部の異狀破壞現象(I)翻譯		32
産業勞働力の活用に関する研究			日本鑛業會誌 第59卷 第694號 昭和18年2月		
(其の1)滿洲炭礦勞働者の體勢の特異性と其の適性に就て		731	酸化鐵鑛の浮選に於ける起泡捕集劑の研究(II)	葛原大策, 島田吉英, 淺倉林一	64
(其の2)筋的作業能力標尺としての靜筋力に就て	白井伊三郎, 阿藤快夫	763	滿洲鑛分析(ヴォルハート法)の亞鉛華の適當量と炭酸カルシウム法に就て	小室 三郎	73
滿洲の氣候風土適應に関する研究			滿洲の技術 第20卷 第166號 昭和18年1月		
(其の1)北滿開拓民の居住環境に就て	白井伊三郎, 田邊正雄	763	空氣選炭に就て	岩田 正五	425
デーゼル機關の燃料噴射に関する研究	久保田重種, 淺川勇吉編	775	化學機械 第6卷 第4號 昭和17年12月		
和龍炭に就て	伊藤硯太郎	933	$x=y^n$ 或は $\sqrt[n]{x}=y$ の計算圖表		237
研究報告 第6卷-第1號 昭和18年1月			二重管に依る熱交換の際の環狀部の相當直徑	佐藤 敬夫	241
クロム鍍金基礎研究(第1報)各種鍍金條件の變化に基づく鍍金狀況並びに硬度と顯微鏡組織の變化に就て	伊藤哲雄, 波多野寅二	1	酸化炭素の水素轉換反應に要する添加水蒸氣量の計算圖表		241
引掻硬度に関する研究	栗林角三, 柴田正喜	19	工學操作に於ける擴散の役割	赤羽 政亮	252
クロム鍍金液再生及び回収	吉田 隆郎	37	高壓化學技術に於ける熱交換及び熱絶縁	佐藤 敬夫	257
名古屋高等工業學校學術報告 第8號 昭和17年11月			國策研究會週報 第5卷 第10號		
鼠鑛鐵の鹽浴焼入に就て	石川 潔	1	共榮圈交通對策の基本方針1		5
工場の位置設定に際し材料と製品の輸送に関する問題	佐藤 申一	11	共榮圈交通部門別對策2		
互並にスレートに関する調査研究(第1報-曝露試驗その1)	渡邊 要, 小島武男	25	生産増強を繞る重要産業部門の動向と其の問題點(II)		
高周波弧光熱の實驗的研究	石野 幸三	61	殖銀調査月報 第57號 昭和18年2月		
多晶體金屬に於ける靜的及動的兩ヤング率の比較測定	一瀬 正己	67	鑛業		33
細管X線管によるアルミニウム單一結晶板の熱膨脹の研究	竹下伊佐雄	79	特許公報 第376號 康徳9年9月		
滿洲國の工業立地に就て	寺澤 正雄	87	衛生工業協會誌 第17卷 第1號		
鑛工滿洲 第4卷 第1號 昭和18年1月			製鐵技術總覽 第3卷 第2號 昭和18年2月		
滿洲技能競争の推移と成果	龜田 淺利	28	殖銀調査月報 第57號 昭和18年2月		
滿鐵撫順炭鑛の全貌(2)		41	資料公報 第4卷 第2號 康徳10年2月		
土木學會誌 第29卷 第2號 昭和18年2月			日本機械學會誌 第46卷 第311號 昭和18年2月		
1/30の急勾配線路に於ける分岐器の敷設(垣内信號所)に就て	鈴木角一郎	187	日本建築士 第32卷 第2號 昭和18年2月		
土木防空資料	卷末		東芝研究時報 第18卷 第2號 昭和18年2月		
燃料協會誌 第22卷 第244號 昭和18年1月			建氣雜誌 第57輯 第694號 昭和18年1月		
石炭鑛業の過去及び將來	佐野秀之助	71	燃料協會誌總目錄 第12~21卷 昭和17年12月		
石油工業の過去及び將來	永井雄三郎	77	電氣化學 第11卷 第1號 昭和18年1月		
燃料研究の動向	伴 義定	85	海外經濟事情 第2號 昭和18年2月		
日滿支石炭時報 第33號 昭和18年1月			大阪商工會議所月報 第429號 昭和18年2月		
東亞共榮圈に於ける石炭對策	水谷光太郎	3	工業化學雜誌 第46編 第1冊 第539號 昭和18年1月		
大東亞共榮圈に於ける石炭の有効利用策(1)	辻元謙之助	22	技術評論 第20卷 第2號 昭和18年2月		
戰時下原料炭の供給確保に関する私見	野田彌三郎	27	自然化學と博物館 第14卷 第2號 昭和18年2月		
戰時下朝鮮無煙炭の利用法に就て	石橋 弘毅	49	アルミニウム 第2卷 昭和17年		
			發明 第40卷 第2號 昭和18年2月		
			日本航空學會誌 第9卷 第92號 昭和17年12月		
			發送電 第3卷 第2號 昭和18年2月		
			理化學研究所彙報 第21輯 第11號		
			大陸科學院研究報告 第6卷 第6號 康徳9年12月		

25

東北帝國大學工業報告 第13卷 第3號

Note on "Wave Propagation in a Semi-infinite Beam from its End" Seiichi Higuchi 373

On the Stress Distributions in the Rim of a Spoked Wheel Seiichi Higuchi and Takeo Ootuka 380

名古屋帝國大學工學部研究報告 第1卷 第1號

On the Current of the Fluid Caused by Heat Convection Z. Sakadi 13

Heat Conduction in Fluid Accompanied by Thermal Expansion Z. Sakadi 29

北海道帝國大學工學部紀要 第7冊 第1號 昭和17年12月

Some Experimental Studies on "Hydroexpansion" of Clay T. Fukutomi 388

Bulletin of the Chemical Society of Japan VI 18,

No 1, January, 1943

Über die Staubexplosion von Aluminium-Pulver. I. (I. Mitteilung des kolloidwissenschaftlichen Untersuchungen disperser Systeme, die die Gas-Phase als ein Komponent enthalten) Naoyasu Sata und Yukio Harisaki 21

Untersuchungen über Mischkatalysatoren. I. Über Mischkatalysatoren. I. Über die Promotorwirkung des Molybdäns und Wolframs auf den Nickelkatalysator für die Hydrierung Shigeo Tanida 30

Untersuchungen über Mischkatalysatoren. II. Röntgenographische Strukturanalyse von Nickel-Molybdän und Nickel-Wolframkatalysatoren Shigeo Tanida 3

Scientific Papers of the Institute of Physical and Chemical Research Nos. 1115~1118, Dec., 1942

A Light Collector for Concentrating Rays through the Spectroscope Slit K. Toishi 151

Proceedings of the Imperial Academy Vol. XIY, No. 1 January, 1943

Scientific Papers of the Institute of Physical and Chemical Research Nos. 1113~1114, Nov. 1942

業界雜報

○鐵鑛恒久策は共榮圈全體を通じて對策を樹てると岸商相が言明した。東中 0221

○鐵鋼業は鑛石法により採算を無視しても生産擴充をすることとなり、統制も強化し、現地も6割増産の豫定 東京 0310

○現地の鐵工業増産の爲上海鐵工業組合は中國側と協議した上大 0104

○關係産業の協力を要する 仙河 0207

○砂鐵鍊には價額問題以外に勞力、資材、輸送、動力の研究の必要がある 東中 0226

○特殊鋼の壓延、鍛造製品向上のため下請は特殊鋼協議會の承認を要することとなつた 東中 0303

○鐵鋼増産議員聯盟が結成された 讀報 0305

○鐵鋼業關係産業の協力を圖る鐵鋼協力會が出来る 東中 0225

○鐵鋼増産の爲統制會の主腦が交替した 大毎 0112

- 行政官廳職權委讓令施行規則が公布された 東中 0121
- 日本の原料による砂鐵製鋼法を實施すると東條首相、鈴木企畫院總裁は議會で答辯した 東中 0206, 0220 大毎 0220
- 兵器用純鐵生産の爲低溫還元法を強權を以て施行せよ 上島慶徳 大毎 0209~0210
- 急速に貧鐵、粗炭を利用するため東邊道等に小型熔鑛爐を設けよ 滿日 0131
- 特殊鋼管株の値上りは某社の合併策のための買入れによる 大阪 0110
- 特殊鋼管大湊工場を石原産業に譲渡する 東都 0113
- 同上賣却價額未定 東都 0226
- 砂鐵が投機的になつてゐる 大毎 0226
- 原價計算基礎として業者は新公價を要求してゐるが商工省は低物價政策上現行價格を維持しやうとしてゐる 東中 0210
- 北安省徳都縣北郷の五大連池は硫化鐵鑛が豊富である 哈爾 0217
- 八戸市郊外北沼で砂鐵を採取してゐる 大阪 0312
- 鳥根縣内久村鑛山を試掘する 東中 0302
- 物動は製品にも及ぼし厚飯、鋼管から始めると相原企畫院第2部長は24日衆議院で言明した 大朝 0222
- 建設部門を經營部門から分離するため鐵鋼工業會社を滿洲に作る 滿日 0203
- 運管法協議會を樺太鋼材配給統制會社で開いた 樺日 0124
- 鑛石増産のため鐵鋼資源會社を作る筈 東中 0211
- 配給圓滑化を圖るため超重點産業に鐵鋼版を縮小しやうとしてゐるが、滿洲の經驗により強化する方針となつた 東中 0211, 0216
- 製鐵能力の効率運管のため富鐵石の確保をする方針となつた 滿日 0121
- 特殊鋼配給店を全國110店に整理の準備を金屬局長の通牒で行つてゐる。3月末迄に實施する 東中 0109, 關日 0118, 名古屋 0115
- 原價計算を適用する會社としない所を理事會で定めた。統制會員30社47工場には適用され、小規模の9社12工場には適用されない 關日 0110
- 適正價決定のため原價計算の準則が法制化した 蒙疆 0107
- 鐵鋼生産設備建設事務は滿洲鐵鋼工務會社に一元的に委託された 大朝 0222
- 生産第一主義により統制會は8部中、企畫、配給、考査、原料の4部を廢し、勤勞、調査、整備の3部を設け人事異動をした 大毎 0202 大阪 0202 東都 0203
- 重點的生擴の目的で配給仕切値は特約店一本建となる 東中 0130
- 増産の爲日鐵社長が統制會長を兼任することとなつた 哈爾 0102
- 生産第一主義により統制會の機構を改める 讀報 0204
- 鑛物工業はどの統制會にも入つて居ないが、獨立にするか包括するか研究中と神田商工省總務局長は答辯した 東中 0221
- 製鐵工場が國家管理となつた 新報 0129 秋魁 0129
- 鉄鑛特物の種には公價がないが一應指示價格の申請をせよ 東中 0222
- 特殊鋼協議會は鐵鋼統制會に吸収された 大阪 0317
- 鐵鋼第2次製品も企業整備するやう當局は通牒を發した 讀報 0307, 大朝 0307
- 生産増強の爲、釘、亜鉛引鐵線、普通鐵線工業整備のため優秀工場に集中する 東中 0303